

令和 8 年度 学校自己評価システムシート（ さいたま市立 植水小学校 ） 学校番号 061

【様式】

学 校 教 育 目 標	かしこく なかよく たくましく ～元気いっぱいさわやか笑顔 ひとみ輝く植水っ子～
目 指 す 学 校 像	○学びを創造し、一人ひとりが輝く学校 ○子どもたちにとって、安心・安全な学校 ○進んで地域・家庭と連携・協働できる学校

重 点 目 標	1 学力の基礎的・基本的事項の確実な定着
	2 子どもたちがのびのびと自らを高めることができる安心・安全な環境を作る
	3 子どもたちを「よりよく変容させる」ことで、地域・保護者からの学校に対する信頼を勝ち取る
	4 事故やケガを未然に防止して、子どもたちにとって安心・安全な環境を作る
	5 「当たり前」に対して責任をもって行動し、互いに磨き合うことができる職員の育成

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学
び
の
質
の
向
上
に
関
する
取
組

心
の
サ
ポ
ー
ト
に
関
する
取
組

学
校
づ
く
り
に
関
する
取
組

教
育
環
境
の
整
備
に
関
する
取
組

教
職
員
の
キ
ャ
リ
ア
形
成
に
関
する
取
組

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価		
年 度		目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標		評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・子どもたちに学力の基礎的・基本的事項の確実な定着のために、①朝の国算タイムの実施 ②研修において、「個別最適・協働的な学び」の実践についての研究や日々の授業改善に取り組んでいる。 ・R07年度「さいたま市学習状況調査」結果 →「国語」3～6年→▼「算数」3,6年→▽ 4,5年→▼ 【課題】 ・子どもたちに学力の基礎的・基本的事項が確実に定着していない。そのため、それらを活用して自ら課題を見つけ、解決することが難しい。	○学力の基礎的・基本的事項が確実に定着している	・毎週月曜日の朝の「国・算タイム」では、子どもの実態に即した課題を提示し取り組ませる(繰り返しを大切に)。 ・子どもたちに「母語への気づき」を多く味わわせる(日本語についての知識を高めさせる)。 →「ことばの世界」や G.S.の時間を使って・「わかった・できた喜び」を味わわせる授業を実践することで、自分に自信もてる植水っ子を育成する。 ・「個別最適・協働的な学び」のために→①子どもの実態把握 ②各職員に役割を与え当事者意識をもたせる ③研修時に誰もが何でも言い合える、提案できる雰囲気醸成 ④効果的なタブレットの活用(どのような場面、どのように活用するか) ⑤年2回の研究授業・協議会を実施する。	○R08年度「さいたま市学習状況調査」平均正答率 →3～6年 :「国語」→○ :「算数」→○ ※「○」→市の平均正答率を 3pt 未満、上回っている 「▽」→市の平均正答率を 3pt 未満、下回っている 「▼」→市の平均正答率を 3pt 以上、下回っている				
		○自ら学びに向かう子どもを育成する		○学校評価アンケート「学習」(児童)項目に関する肯定的回答→95%(R07年度→92%) ○学校評価アンケート「授業中、タブレットを活用することで学習内容がよくわかる」(児童)項目→肯定的回答 80%以上				
2	【現状】 ・明るく誰もが羨む植水小学校にするために、子ども同士が互いを尊重、大切に思う指導を徹底するとともに、日頃から職員による子どもたちへの積極的な声掛けを行っている。 ・R07年度「いじめ」「不登校」件数 「いじめ」→15件 「不登校」→7件 【課題】 ・学校内での基本的なルールや当たり前を当たり前への徹底が不十分である。	○誰もが安心・安全な環境で学校生活を送ることができる(いじめ・不登校件数の削減)	・学校・学級に「何でも言っていんだよ」という雰囲気を作る。その中で、子ども同士互いの意見を尊重する・大切にする姿勢をはぐくんでいく。 ・子どもと担任の信頼関係を強固にするために、互いに触れ合える時間を確保する。	○学校評価アンケート「学校はトラブルに対して迅速かつ丁寧に対応している」(保護者)項目 →肯定的回答 95%以上(R07年度→93%) ○組織でのいじめの未然防止や起きてしまった時の迅速、丁寧な対応の徹底と不登校の件数削減				
		○日々の学校生活への「やる気」を高めている	・子どもたちに「当たり前」(あいさつ・靴のかかと・廊下歩行・清掃等)を一つひとつ大切にさせることで、①これからの成長の土台を築くようにする。 ②自分に自信をもたせ日々の学校生活(勉強・運動)への意欲を高めるようにする。	○学校評価アンケート「毎日元気に登校している」(児童)項目に関する肯定的回答 95%以上 (R07年度(児童)93%)				
3	【現状】 ・本校が、地域・家庭と連携し子どもたちを見守っていくために、日々の教育活動を通して「子どもたちをよりよく変容させていく」ことで地域・家庭から本校への信頼を勝ち取る必要がある。そのため、子どものよりよい変容のために全職員で、日々の教育活動に取り組んでいる。 【課題】 ・地域・保護者・学校の考える「育てて欲しい子どもたちの姿」とそのための取組の理解をもっと深めたい。	○地域・家庭・学校で、子どもたちの実態の共有	・コミュニティスクール(年3回)にて本校の実態(学力・体力・生徒指導など)について説明する。 →理解していただき、子どもたちのよりよい変容のための課題を明らかにし、解決策について話し合う。 ・学校だよりや学校 HP(毎日更新)で子どもたちの様子について発信していく。	○学校評価アンケート「学校や子どもたちの様子を伝えているか」(保護者)項目に関する肯定的回答 95%以上 (R07年度→97%)				
		○地域・家庭・学校で、子どもたちを見守る	・子どもたちを将来の植水地区、さいたま市を担う大人に成長させるために地域・家庭・学校は何をすべきなのかコミュニティスクールで熟議を重ねる。 ・行事開催のため地域関係機関と協働し、多くの参加者を確保するために周知を徹底する。 (特に「レッツジョイン・クリーン活動」)	○学校評価アンケート「地域協働」(保護者)項目に関する肯定的回答 95%以上 (R07年度→96%)				
4	【現状】 ・子どもたちが安心・安全な環境でのびのびと学校生活を送ることができている。引き続き、この環境を維持していく。 ・授業中のケガについて、指導や安全な学習環境の確保をより徹底していれば防ぐことができたものもある。 【課題】 ・学校内でのケガの件数(保健室で対応) →R07年度(12月20日現在)533件 ・子どものケガを未然に防ぐために職員の意識を高める。	○誰にとっても安心・安全、気持ちのよい環境の維持	・気持ちのよい環境の整備・維持のため(子どもたちが実感できる)、日々、頭を使った清掃活動を行うよう指導する。 ・夏季休業中にケガの多い授業(体育・図工・理科など)における事故・ケガ防止研修を各主任が行う。 ・落ち着いた環境のために、廊下歩行やその他学校内でのルールについて全職員、生徒指導部による声かけを徹底する。	○子どものケガの件数を昨年度比 20%削減				
		○学校施設の瑕疵による事故を未然に防	・安全点検は、子どもの目線で、叩いて、ゆすつてを基本とする。安全点検結果から、要修繕箇所があった場合には即修繕をする。 ・子どものよりよい学びを保证するために、必要ところへ適切な予算の執行ができるように、管理職と事務職員、関係職員による予算会議を実施[年3回]	○学校施設の瑕疵による事故 ゼロ ○学習環境の整備・維持のために効果的な予算の執行→執行率 100%				
5	【現状】 ・「子どものよりよい変容」のために、学校全体として互いに協力し合いながら職務に励んでいる。 【課題】 ・日々の業務に追われ、教師としての資質を高めるための自己研鑽に励むことが難しい。 ・子どもに指導しなければならない「当たり前」の一つひとつが疎かになることがある。	○なんでも言える風通しの良い職場環境	・よりよい変容のために必要な強固な土台を子どもの内に築くために、各職員が「当たり前」に責任をもって行動する。 ・子ども・学校をよりよくするために気付いたことは互いに声かけたり、考えを提案したり、時には注意したりできる気風を醸成する。	○学校評価アンケート「働きやすい職場」(職員)項目に関する肯定的回答 70%以上 [R07年度→62%] [R06年度→39%]				
		○「働き方マスタープラン」を推進する	・時間外在校時間の→全職員 45 時間/月以内→①「仕事は分担(割り算の考え)、終わった喜びはみんなで(かけ算の考え)」を徹底する ②割振調整(勤務を割り振ると同時に調整取得日を記入)や年休の計画的な取得の推奨 ③行事の見直しや会議時間を削減し、落ち着いて子どもや職務に向き合う時間を確保する	○一人当たりの時間外在校時間/月平均 45時間以内の職員割合を 90%以上				